

島のシンボル・大島三原山(758m)

西 正子

●2019年4月6日(土)夜~7日(日) 晴れ

●メンバー 白井 西A 西M(福山)

●コースタイム 約4時間30分

大島温泉ホテル→外輪山→お鉢巡り→テキサスコース→大島公園

伊豆大島は島全体が活火山。その中でも中央に位置する「三原山」は、御神火様といわれ、昔から尊ばれてきた島のシンボルだ。

今回、東海汽船の「ハイキング切符(往復船代+登山バス代+2食+入浴=8000円)を利用し、このシンボル山登山を計画した。

夜10時に竹芝桟橋を出発した船は、横浜を經由、翌朝6時に大島岡田港に入港した。東京湾やレインボーブリッジの灯り、羽田を離着陸する飛行機の眺めなど、夜景もめずらしいものだった。

すぐに連絡バスで大島温泉ホテルへと向かう。簡単に朝食を済ませ、7時20分登山を開始した。

お天気がよく、三原山の雄々しい姿が美しい。道は明瞭だが、左右を見れば溶岩流の固まりがあちこちに堆積し、30年前の噴火の痕跡が生々しい。中には塔状に積み上がったものもあり、こちらは黒い樹氷を連想させる。

登山道は火山礫の砂利が不安定で、少し歩きにくい。足を取られやすいが、注意しながらゆっくりと高度を上げていく。最後の登りは急傾斜に見えたが、じっさいはそうでもなく、歩き始めて1時間強で火口縁の一角に飛び出した。

そこからは、三原山の定番「お鉢巡り」。火孔(火口)を時計まわりに1周した。

すごい噴火口だった。直径は300m以上。内壁は荒々しく削り取られ、時折、石がガラガラと崩れ落ちる。草津、蔵王、浅間山・・・今まで見たどのお釜よりも数段激烈な姿がそこにあった。

さらに、さえぎるものの無い独立峰の風は半端

ではなかった。轟音と爆風に何度もよろけてしまう。それでも髪を獅子のように振り乱しながら、ゆっくりと風に立ち向かい、前進をつづけた。

40分ほどかけ一周し、ようやく下山だ。

下山には5.7キロを2時間で下る「テキサスハイキングコース」を選んだ。名前のとおり見渡すかぎりの砂漠帯だ。その大平原の真ん中に道が一直線にのびている。西部劇「シェーン」を思い出させる景色だった。

少し下ると風が弱まり、ようやく大休止することができた。陽も暖かく、ほっとする。

標高を下げるにつれ、草原が巾を利かせるようになった。やがて樹木が現れ、さらに下ると樹勢がぐっと増す。最後は濃樹林の中、階段をどんどん下ると、ゴールの大島公園が見えてきた。

椿で有名な公園も、この時期はオオシマザクラに主人公の座を譲っている。薄ピンク色の可憐な花が満開の園内を巡って、今回の山旅のしめくくりとした。

帰りの船の待ち時間、港近くの食堂に入った。島焼酎、べっこう寿司、くさやの干物、アシタバ炒めなど、郷土色豊かな珍味が味わえるのも、島登山の特典といえるかもしれない。

1986年の噴火時、溶岩流が避けて通った奇跡の「三原神社」

